

中2国語 出題のねらいと対策

1 漢字の読み書き 70.0%

ねらい：漢字がしっかりと正しく読み書きできるかを問う。

分析と対策：「イタむ」は、「痛む」と「傷む」という同訓異義語があります。意味の違いに気をつけて使い分けられるようにしてください。

2 助詞・助動詞 90.8%

ねらい：助詞・助動詞の意味・用法について区別できるかどうかを問う。

分析と対策：「られる」、「そうだ」が助動詞、「の」、「ながら」が助詞です。それぞれに複数の意味・用法があるので、その判別ができるようにしっかりと学習しておきましょう。では、助動詞「られる」について、受け身・可能・自発・尊敬という四つの意味を確認しましょう。

3 詩の鑑賞 76.0%

ねらい：詩の表現を味わい、その主題を読み取る力を問う。

分析と対策：少ないことばで書かれている韻文を鑑賞する際には、一つ一つのことばに対して、散文を読むとき以上に注意を払うようにしてください。詩について学習するときには、口語詩・文語詩・自由詩・定型詩などの詩の分類や、対句・直喩・隠喩・擬人法・倒置法・体言止めなどの主な表現技法について、しっかりと確認しておきましょう。今回のような鑑賞文がついた詩の問題では、詩と鑑賞文の解説との対応に注意して読み進めるようにしましょう。

4 文学的文章読解 79.6%

ねらい：場面や人物をしっかりとらえ、心情描写を読み取る力を問う。

分析と対策：主人公である「ぼく」と河辺、山下の三人を中心的な登場人物として、そのやりとりが描かれています。父親を亡くしている河辺を思いやる「ぼく」の気持ちを読み取ってください。亡くなった父親を美化しようとしている河辺の気持ちを読み取ります。「トラブルは避けられているのだけれど」、それでもやはりトラブルが起きたときもあるということで、杉田の話が紹介されていることを読み取りましょう。文章の細部から、一人一人の登場人物がどのような人物として描かれているかを考えてください。

5 説明的文章読解 67.5%

ねらい：文章を通して、筆者の主張を正確にとらえる力を問う。

分析と対策：「便箋」については、段落7から述べられていることに着目します。同じ文に「字もまた人なりで、とにかく文章を書くことは自己を表現し、自分の心を相手に伝えることである」と書かれていることから、「文は人なり」の表す意味を類推することができます。直前の「自分自身を深め、皮相なところで忙しく動いている日常の根底に本当の自分を見いだすこと」という内容に着目します。

全体の平均点は75.8点です。大問別テーマのうしろの数字は、全体の大問別正答率です。個人成績表を見ながら、不得意テーマに対する今後の学習の方針を見つけましょう。